



清心道中金好景難  
九

箱根江崎


逍遙文庫  
文庫6  
1004  
19

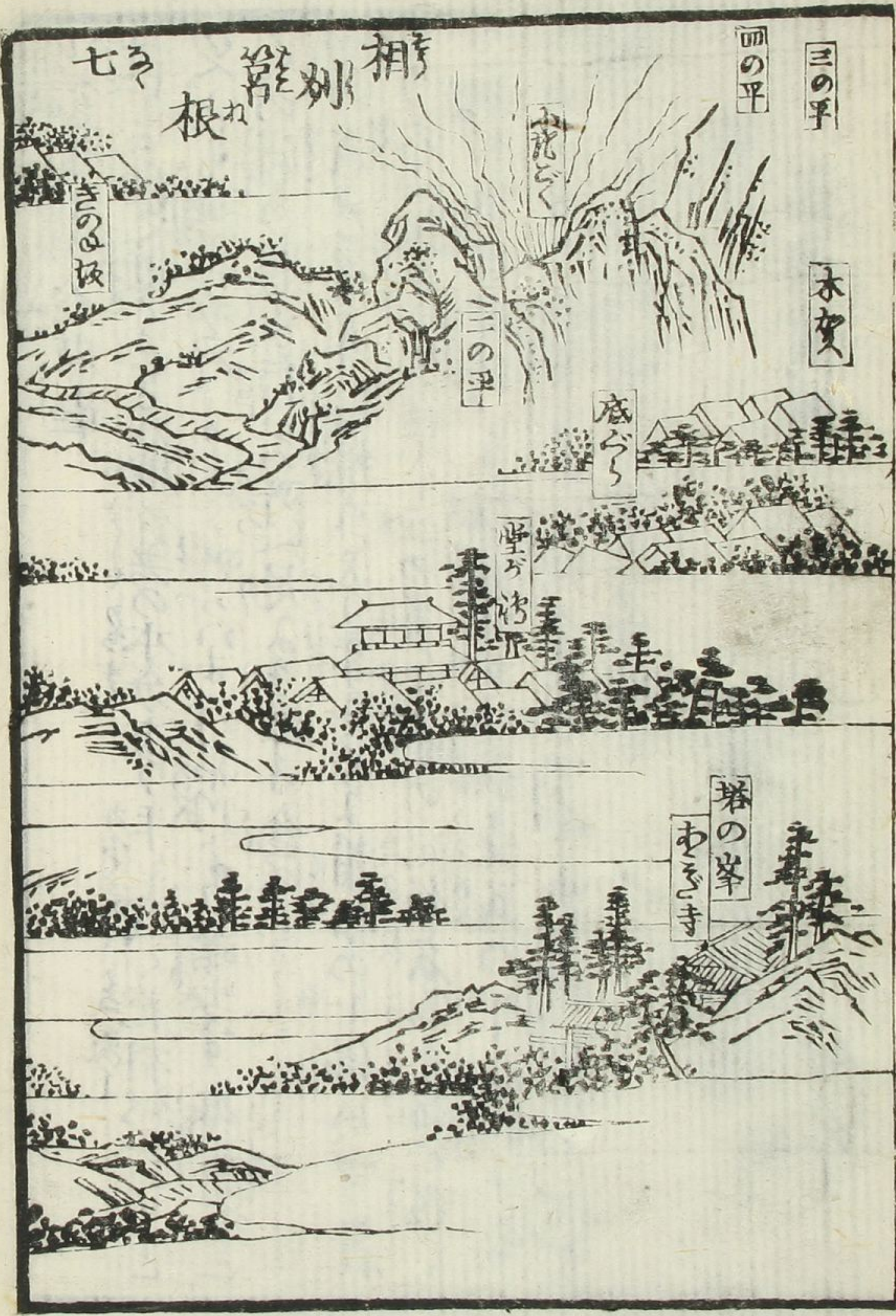
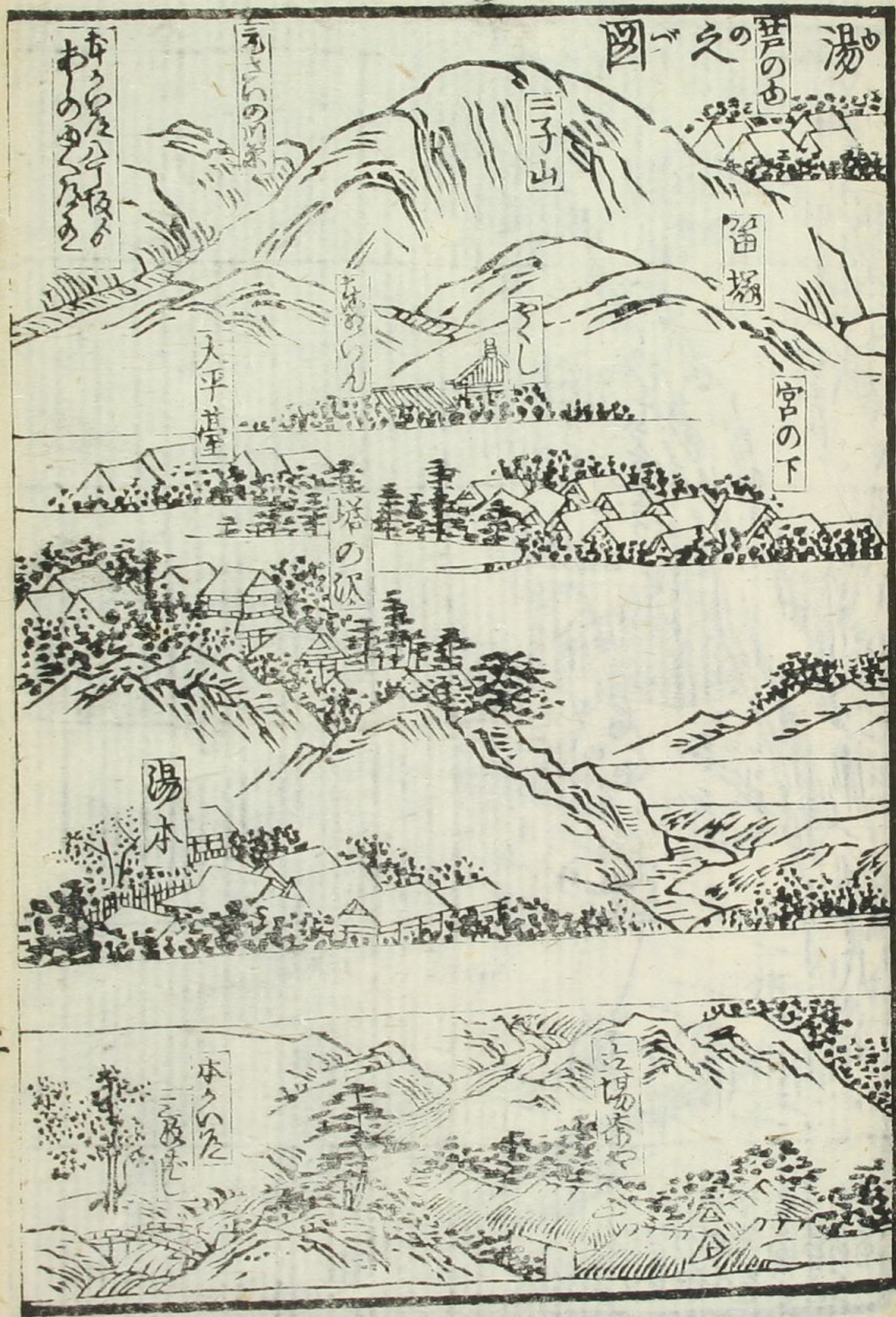


文庫6  
1004  
19

箱根山七温泉 金草鞋  
 故との山々漸くまゝの職作者の本分あり年々歳々花相似るごと  
 ども酒落ちたりとて所々の品下り暗安す後にも  
 くの得も勝も行ふ所一足よりする金のつとて去り  
 別の柱とて入り引続さる今年もどよ箱根の七湯めぐり  
 よう大の街とを逢へ江の岸に橋の記あり古跡を  
 一何の方言修行も諸君の出侍歌売瓦のつとて  
 つけとておの弦候るの口ははらとどつとて  
 題よまの影板とちやうつとて

癸巳  
孟春茂版

十返舎一九誌  




東海三嶋



るのこは三嶋のふもとにありては... 千ののちきりありては... 大のけこちりありては... 大のけこちりありては... 大のけこちりありては...

あつては... 百ののち... 大のけこちり...



あつては... 大のけこちり... 大のけこちり... 大のけこちり... 大のけこちり...

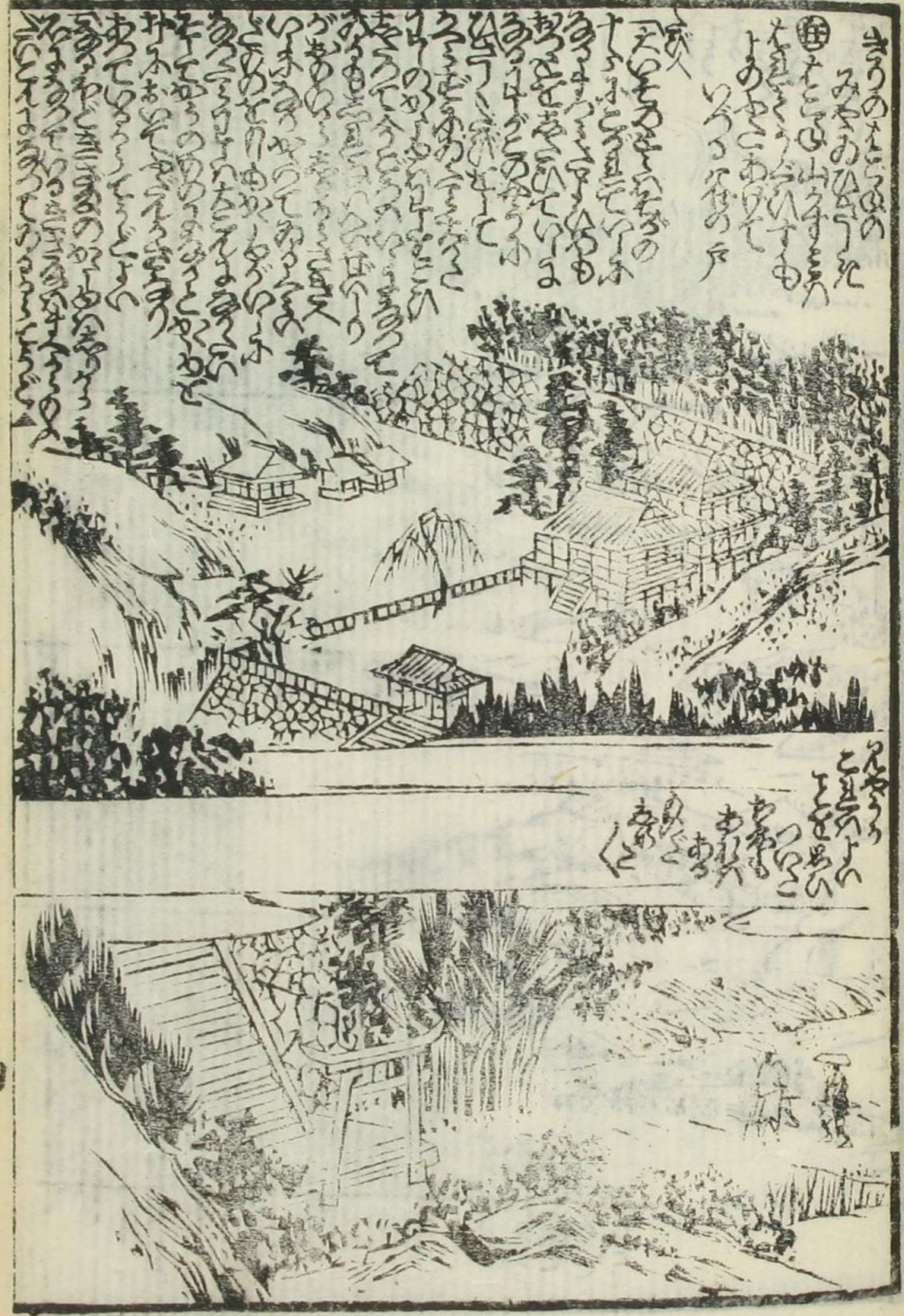
あつては... 大のけこちり... 大のけこちり... 大のけこちり... 大のけこちり...

箱根山権現



箱根山権現の  
 権現様は  
 山頂に  
 坐す  
 といふ  
 事なり  
 然れども  
 山麓に  
 坐す  
 といふ  
 事あり  
 此の  
 権現  
 といふ  
 神は  
 山に  
 坐す  
 といふ  
 事あり  
 然れども  
 山麓に  
 坐す  
 といふ  
 事あり  
 此の  
 権現  
 といふ  
 神は  
 山に  
 坐す  
 といふ  
 事あり  
 然れども  
 山麓に  
 坐す  
 といふ  
 事あり

山頂に  
 坐す  
 といふ  
 事あり  
 然れども  
 山麓に  
 坐す  
 といふ  
 事あり  
 此の  
 権現  
 といふ  
 神は  
 山に  
 坐す  
 といふ  
 事あり  
 然れども  
 山麓に  
 坐す  
 といふ  
 事あり  
 此の  
 権現  
 といふ  
 神は  
 山に  
 坐す  
 といふ  
 事あり  
 然れども  
 山麓に  
 坐す  
 といふ  
 事あり



箱根山権現の  
 権現様は  
 山頂に  
 坐す  
 といふ  
 事なり  
 然れども  
 山麓に  
 坐す  
 といふ  
 事あり  
 此の  
 権現  
 といふ  
 神は  
 山に  
 坐す  
 といふ  
 事あり  
 然れども  
 山麓に  
 坐す  
 といふ  
 事あり  
 此の  
 権現  
 といふ  
 神は  
 山に  
 坐す  
 といふ  
 事あり  
 然れども  
 山麓に  
 坐す  
 といふ  
 事あり

山頂に  
 坐す  
 といふ  
 事あり  
 然れども  
 山麓に  
 坐す  
 といふ  
 事あり  
 此の  
 権現  
 といふ  
 神は  
 山に  
 坐す  
 といふ  
 事あり  
 然れども  
 山麓に  
 坐す  
 といふ  
 事あり  
 此の  
 権現  
 といふ  
 神は  
 山に  
 坐す  
 といふ  
 事あり  
 然れども  
 山麓に  
 坐す  
 といふ  
 事あり



下の宮



倉底



塔の澤



堂の个











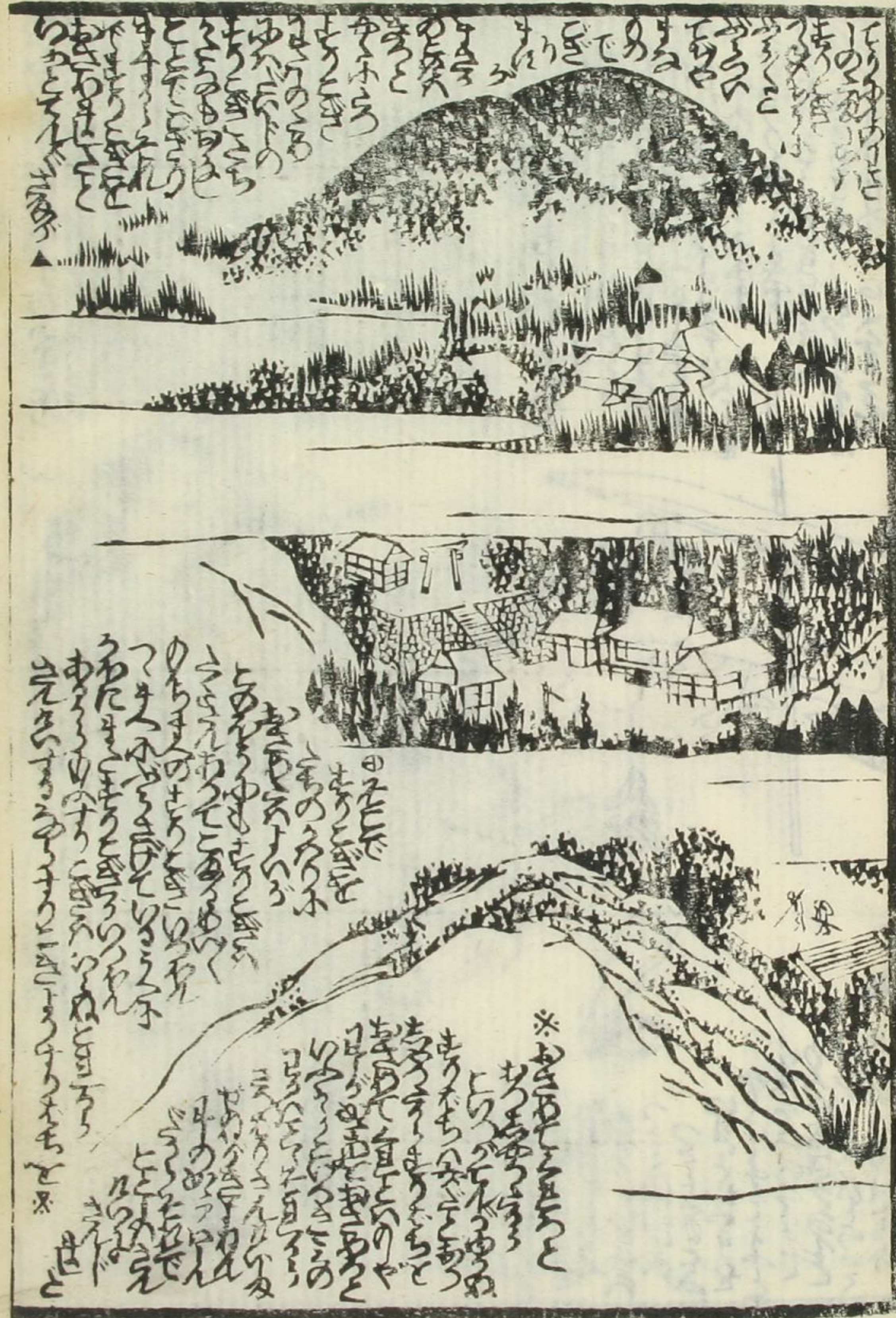


大嶺山石見傳



大嶺山石見傳  
 此山は石見の名山にして  
 昔より名譽を博し  
 今もその名を傳へ  
 其の山頂は峻嶒  
 草木不生  
 其の山麓は平野  
 田舎あり  
 其の山腰は森林  
 樹木多し  
 其の山脚は清流  
 水質清冽  
 其の山頂は雲霧  
 常々あり  
 其の山麓は田舎  
 田舎あり  
 其の山腰は森林  
 樹木多し  
 其の山脚は清流  
 水質清冽  
 其の山頂は雲霧  
 常々あり

大嶺山石見傳  
 此山は石見の名山にして  
 昔より名譽を博し  
 今もその名を傳へ  
 其の山頂は峻嶒  
 草木不生  
 其の山麓は平野  
 田舎あり  
 其の山腰は森林  
 樹木多し  
 其の山脚は清流  
 水質清冽  
 其の山頂は雲霧  
 常々あり  
 其の山麓は田舎  
 田舎あり  
 其の山腰は森林  
 樹木多し  
 其の山脚は清流  
 水質清冽  
 其の山頂は雲霧  
 常々あり



大嶺山石見傳  
 此山は石見の名山にして  
 昔より名譽を博し  
 今もその名を傳へ  
 其の山頂は峻嶒  
 草木不生  
 其の山麓は平野  
 田舎あり  
 其の山腰は森林  
 樹木多し  
 其の山脚は清流  
 水質清冽  
 其の山頂は雲霧  
 常々あり  
 其の山麓は田舎  
 田舎あり  
 其の山腰は森林  
 樹木多し  
 其の山脚は清流  
 水質清冽  
 其の山頂は雲霧  
 常々あり

大嶺山石見傳  
 此山は石見の名山にして  
 昔より名譽を博し  
 今もその名を傳へ  
 其の山頂は峻嶒  
 草木不生  
 其の山麓は平野  
 田舎あり  
 其の山腰は森林  
 樹木多し  
 其の山脚は清流  
 水質清冽  
 其の山頂は雲霧  
 常々あり  
 其の山麓は田舎  
 田舎あり  
 其の山腰は森林  
 樹木多し  
 其の山脚は清流  
 水質清冽  
 其の山頂は雲霧  
 常々あり



後 沃



四 谷



天を才辨之の菴



此の山は天の才辨の菴にありて  
 昔は天の才辨の菴と云ふなり  
 今もその名を留め置きてあり  
 此の山は天の才辨の菴にありて  
 昔は天の才辨の菴と云ふなり  
 今もその名を留め置きてあり  
 此の山は天の才辨の菴にありて  
 昔は天の才辨の菴と云ふなり  
 今もその名を留め置きてあり

上の山  
 下の山  
 此の山は天の才辨の菴にありて  
 昔は天の才辨の菴と云ふなり  
 今もその名を留め置きてあり



此の山は天の才辨の菴にありて  
 昔は天の才辨の菴と云ふなり  
 今もその名を留め置きてあり  
 此の山は天の才辨の菴にありて  
 昔は天の才辨の菴と云ふなり  
 今もその名を留め置きてあり

上の山  
 下の山  
 此の山は天の才辨の菴にありて  
 昔は天の才辨の菴と云ふなり  
 今もその名を留め置きてあり



音を観る瀬初

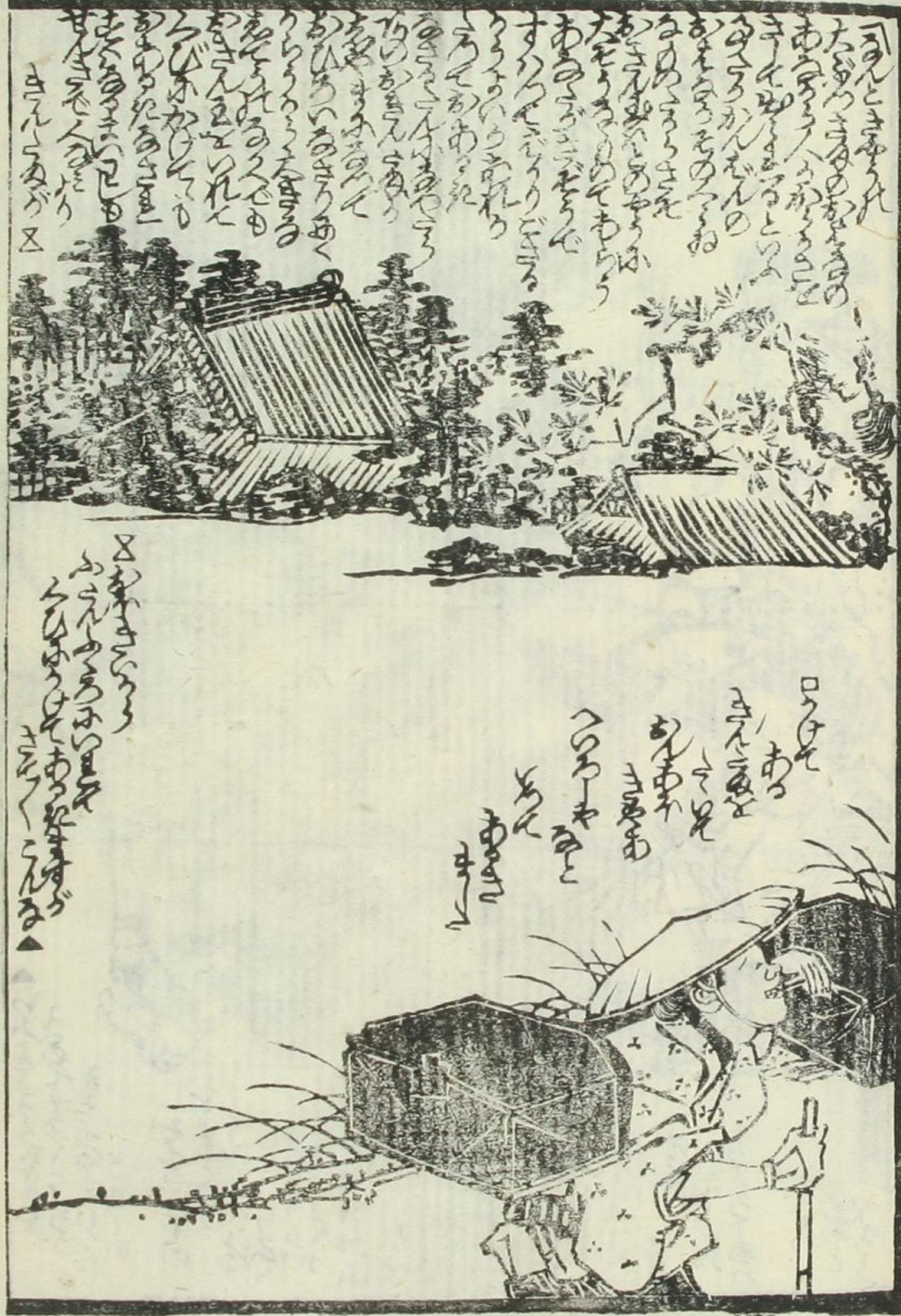
井の星

越ん腰

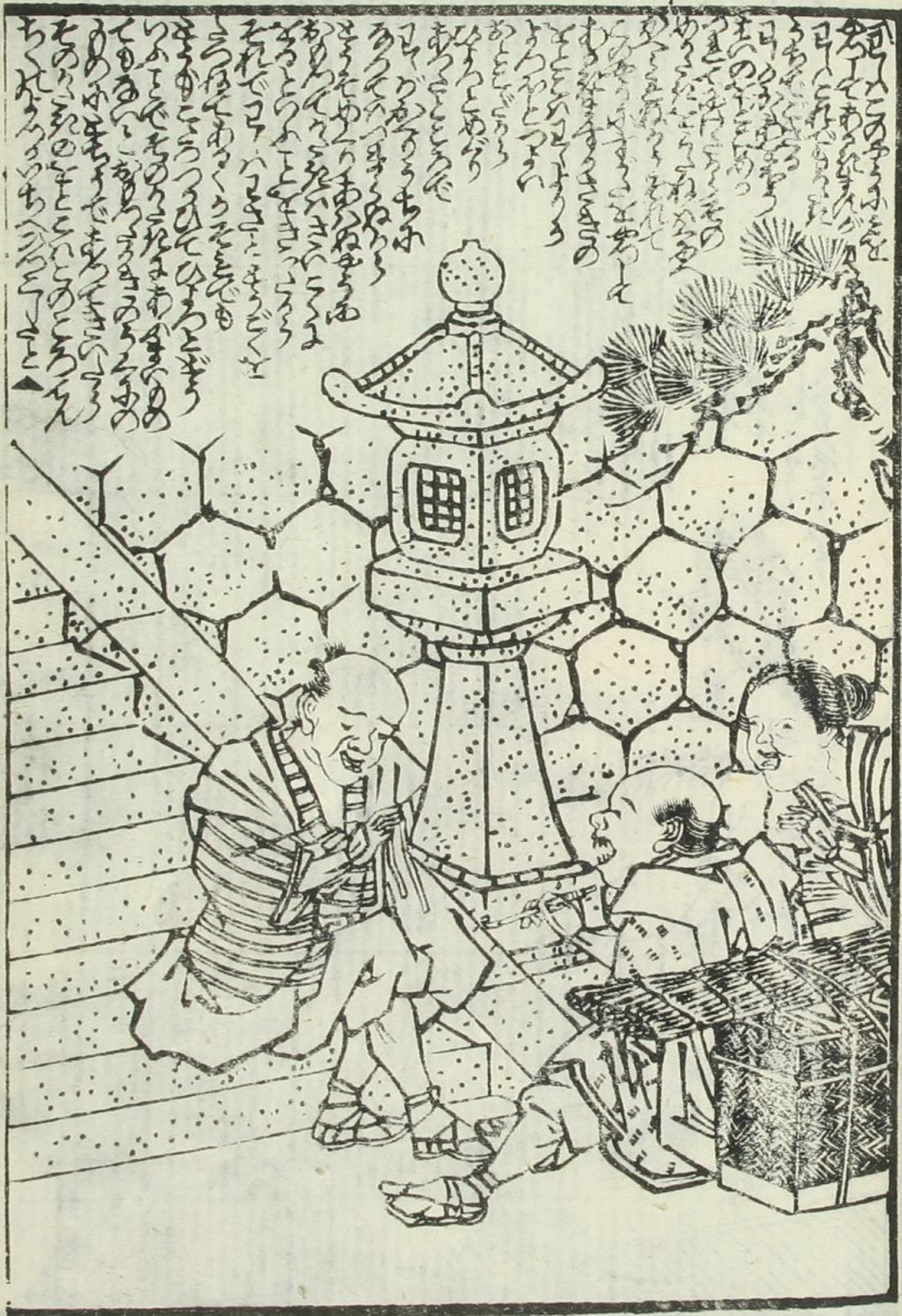


景と政と社

大い 佛



堂屋岩



荷多指助佐



夢の段

下の雪



夢の段の文字は、縦書きで、物語の進行や登場人物の行動を記述している。文字は流麗な書体で、読みやすいように配置されている。



下の雪の文字は、縦書きで、物語の進行や登場人物の行動を記述している。文字は流麗な書体で、読みやすいように配置されている。



朝比奈の切通



そとよりかきおぼのころのちりきり  
 びんごうしゅうのけさくちゅう  
 ちゆうくわんげんのうらたけ  
 ことごとくおぼえぬ  
 ことごとくおぼえぬ  
 ことごとくおぼえぬ  
 ことごとくおぼえぬ

朝比奈の切通  
 朝比奈の切通  
 朝比奈の切通  
 朝比奈の切通  
 朝比奈の切通  
 朝比奈の切通

浦六

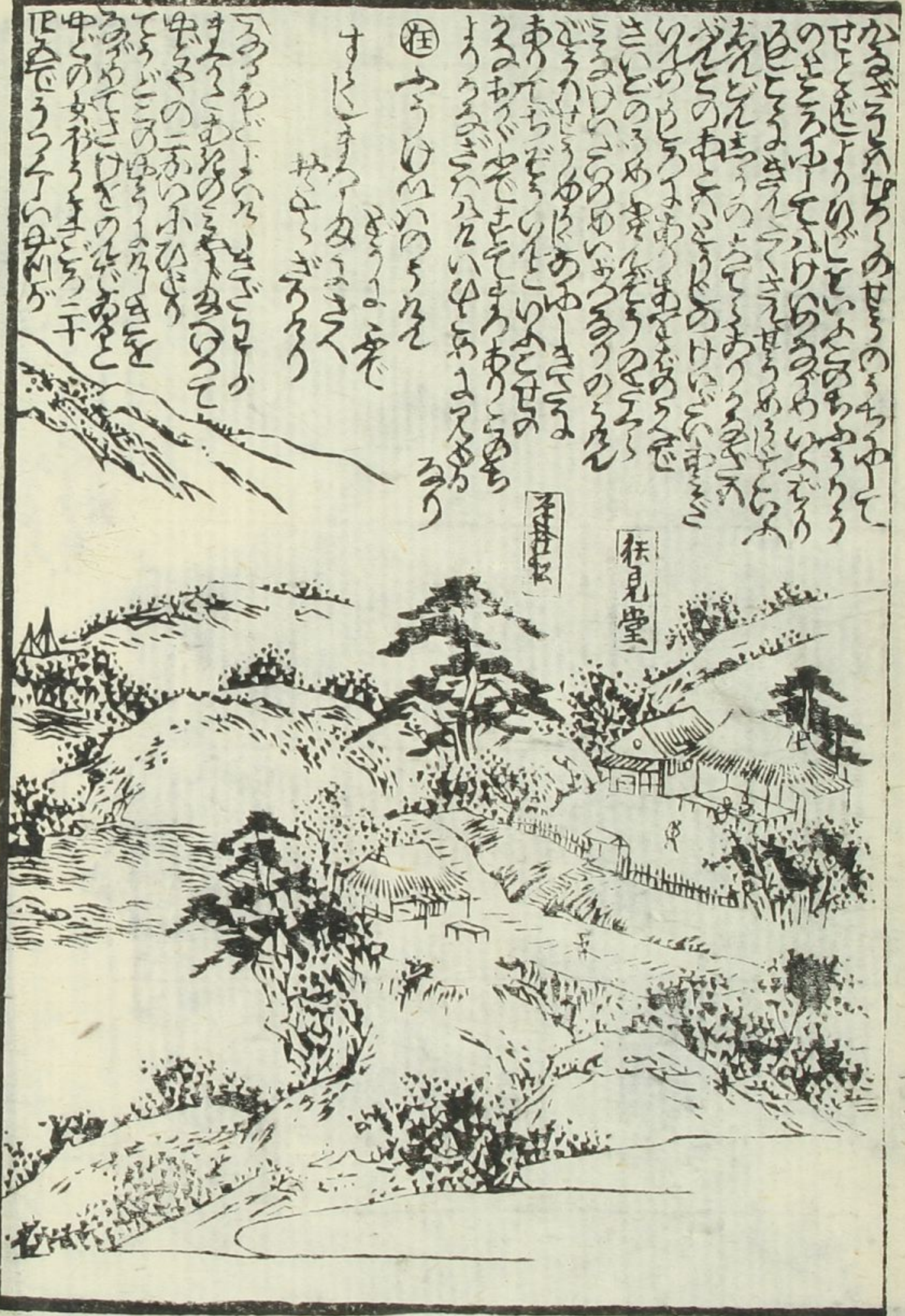


浦六  
 浦六  
 浦六  
 浦六  
 浦六  
 浦六

浦六  
 浦六  
 浦六  
 浦六  
 浦六  
 浦六

金沢

能見堂



かきつりてはるのさきのうちゆて  
 せしきよりのしんせいのちゆり  
 のまきりてはるのちゆり  
 りとまきりてはるのちゆり  
 りとまきりてはるのちゆり  
 りとまきりてはるのちゆり  
 りとまきりてはるのちゆり  
 りとまきりてはるのちゆり  
 りとまきりてはるのちゆり  
 りとまきりてはるのちゆり  
 りとまきりてはるのちゆり

能見堂

金沢



十三のりかきつりて  
 せしきよりのしんせいのちゆり  
 のまきりてはるのちゆり  
 りとまきりてはるのちゆり  
 りとまきりてはるのちゆり  
 りとまきりてはるのちゆり  
 りとまきりてはるのちゆり  
 りとまきりてはるのちゆり  
 りとまきりてはるのちゆり  
 りとまきりてはるのちゆり

金沢

かきつりてはるのさきのうちゆて  
 せしきよりのしんせいのちゆり  
 のまきりてはるのちゆり  
 りとまきりてはるのちゆり  
 りとまきりてはるのちゆり  
 りとまきりてはるのちゆり  
 りとまきりてはるのちゆり  
 りとまきりてはるのちゆり  
 りとまきりてはるのちゆり  
 りとまきりてはるのちゆり

杉と本観光音



井ノ小一

井ノ小一

井ノ小一

井ノ小一



天合山



天合山の  
 山頂に  
 ありては  
 雲霧の  
 中を  
 歩む  
 こと  
 難し  
 といふ  
 人も  
 あり  
 けり  
 然れ  
 ども  
 天  
 皇  
 の  
 御  
 幸  
 あり  
 しか  
 らば  
 何  
 れ  
 の  
 難  
 事  
 ぞ  
 と  
 思  
 へ  
 る  
 事  
 也  
 夫  
 の  
 如  
 き  
 事  
 也  
 天  
 皇  
 の  
 御  
 幸  
 あり  
 しか  
 らば  
 何  
 れ  
 の  
 難  
 事  
 ぞ  
 と  
 思  
 へ  
 る  
 事  
 也

天合山の  
 山頂に  
 ありては  
 雲霧の  
 中を  
 歩む  
 こと  
 難し  
 といふ  
 人も  
 あり  
 けり  
 然れ  
 ども  
 天  
 皇  
 の  
 御  
 幸  
 あり  
 しか  
 らば  
 何  
 れ  
 の  
 難  
 事  
 ぞ  
 と  
 思  
 へ  
 る  
 事  
 也

天合山の  
 山頂に  
 ありては  
 雲霧の  
 中を  
 歩む  
 こと  
 難し  
 といふ  
 人も  
 あり  
 けり  
 然れ  
 ども  
 天  
 皇  
 の  
 御  
 幸  
 あり  
 しか  
 らば  
 何  
 れ  
 の  
 難  
 事  
 ぞ  
 と  
 思  
 へ  
 る  
 事  
 也

瑞泉寺



瑞泉寺の  
 山頂に  
 ありては  
 雲霧の  
 中を  
 歩む  
 こと  
 難し  
 といふ  
 人も  
 あり  
 けり  
 然れ  
 ども  
 天  
 皇  
 の  
 御  
 幸  
 あり  
 しか  
 らば  
 何  
 れ  
 の  
 難  
 事  
 ぞ  
 と  
 思  
 へ  
 る  
 事  
 也

瑞泉寺の  
 山頂に  
 ありては  
 雲霧の  
 中を  
 歩む  
 こと  
 難し  
 といふ  
 人も  
 あり  
 けり  
 然れ  
 ども  
 天  
 皇  
 の  
 御  
 幸  
 あり  
 しか  
 らば  
 何  
 れ  
 の  
 難  
 事  
 ぞ  
 と  
 思  
 へ  
 る  
 事  
 也

比企新谷の妙見本



十四

十四

田代の観音



十五

十五

寺國安谷多葉松



まつりなまのあやうき  
 ちかまをいへるあやうき  
 こころのあやうき  
 ちかまをいへるあやうき  
 こころのあやうき  
 ちかまをいへるあやうき  
 こころのあやうき  
 ちかまをいへるあやうき  
 こころのあやうき  
 ちかまをいへるあやうき  
 こころのあやうき

まつりなまのあやうき  
 ちかまをいへるあやうき  
 こころのあやうき  
 ちかまをいへるあやうき  
 こころのあやうき  
 ちかまをいへるあやうき  
 こころのあやうき  
 ちかまをいへるあやうき  
 こころのあやうき  
 ちかまをいへるあやうき  
 こころのあやうき

まつりなまのあやうき  
 ちかまをいへるあやうき  
 こころのあやうき  
 ちかまをいへるあやうき  
 こころのあやうき  
 ちかまをいへるあやうき  
 こころのあやうき  
 ちかまをいへるあやうき  
 こころのあやうき

寺洛陀普



まつりなまのあやうき  
 ちかまをいへるあやうき  
 こころのあやうき  
 ちかまをいへるあやうき  
 こころのあやうき  
 ちかまをいへるあやうき  
 こころのあやうき  
 ちかまをいへるあやうき  
 こころのあやうき  
 ちかまをいへるあやうき  
 こころのあやうき

まつりなまのあやうき  
 ちかまをいへるあやうき  
 こころのあやうき  
 ちかまをいへるあやうき  
 こころのあやうき  
 ちかまをいへるあやうき  
 こころのあやうき  
 ちかまをいへるあやうき  
 こころのあやうき

# 都江島



都江島の井の池は  
 古くより名高い  
 水は清く甘く  
 夏になると  
 涼風が吹く  
 子供たちが  
 遊ぶ場所  
 である

# 都宮



都宮の祭は  
 毎年おこなわれ  
 子供たちが  
 遊ぶ場所  
 である  
 祭の日には  
 多くの参拝者  
 が訪れる

子供たちが  
 遊ぶ場所  
 である  
 祭の日には  
 多くの参拝者  
 が訪れる

由井濱

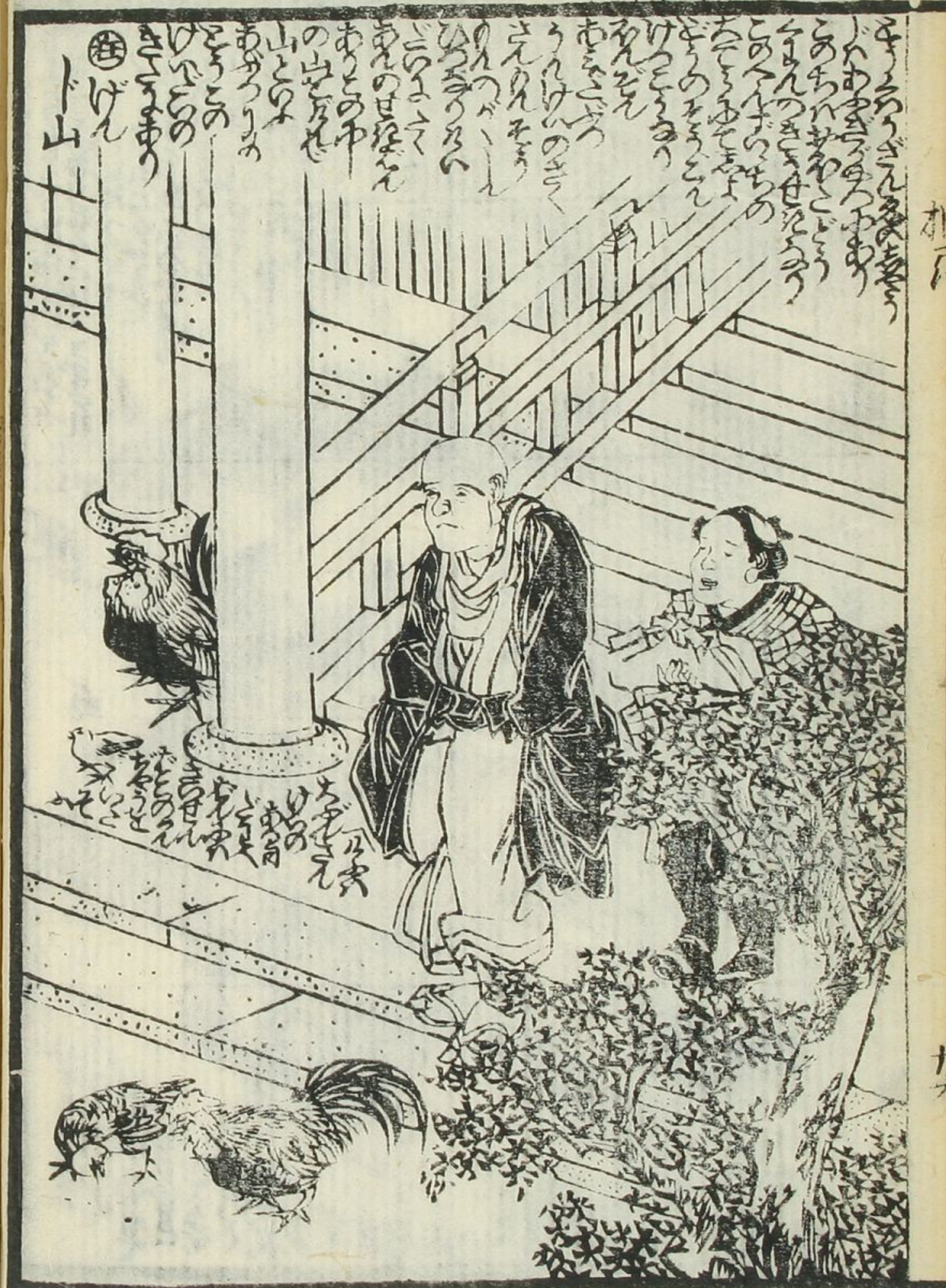




源氏ト山



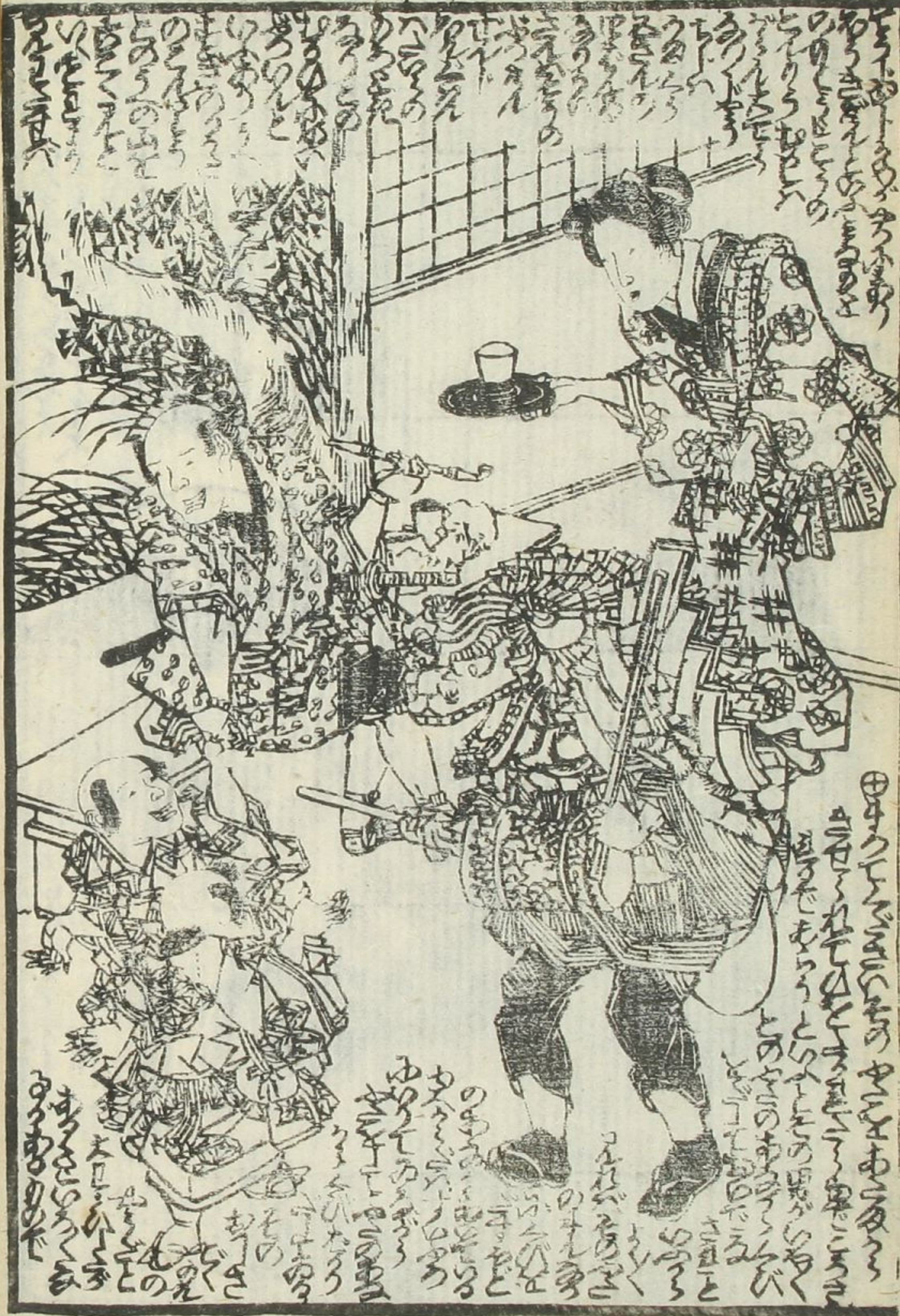
谷が个が







寺壽長



Handwritten Japanese text surrounding the illustration, including vertical columns of characters and some larger characters interspersed within the scene.

院と月が明



Handwritten Japanese text surrounding the illustration, including vertical columns of characters and some larger characters interspersed within the scene.

四八

廿一

上之樽 油



山之内の老光寺

由緒つては古く山之内の老光寺は、  
あつたといふ。この寺の歴史は、  
おもしろい。昔々、この山に、  
おもしろい。昔々、この山に、  
おもしろい。昔々、この山に、  
おもしろい。昔々、この山に、  
おもしろい。昔々、この山に、  
おもしろい。昔々、この山に、  
おもしろい。昔々、この山に、  
おもしろい。昔々、この山に、



おもしろい  
おもしろい  
おもしろい  
おもしろい  
おもしろい  
おもしろい  
おもしろい  
おもしろい  
おもしろい  
おもしろい



おもしろい

おもしろい



九山稲荷



新宮六本杉





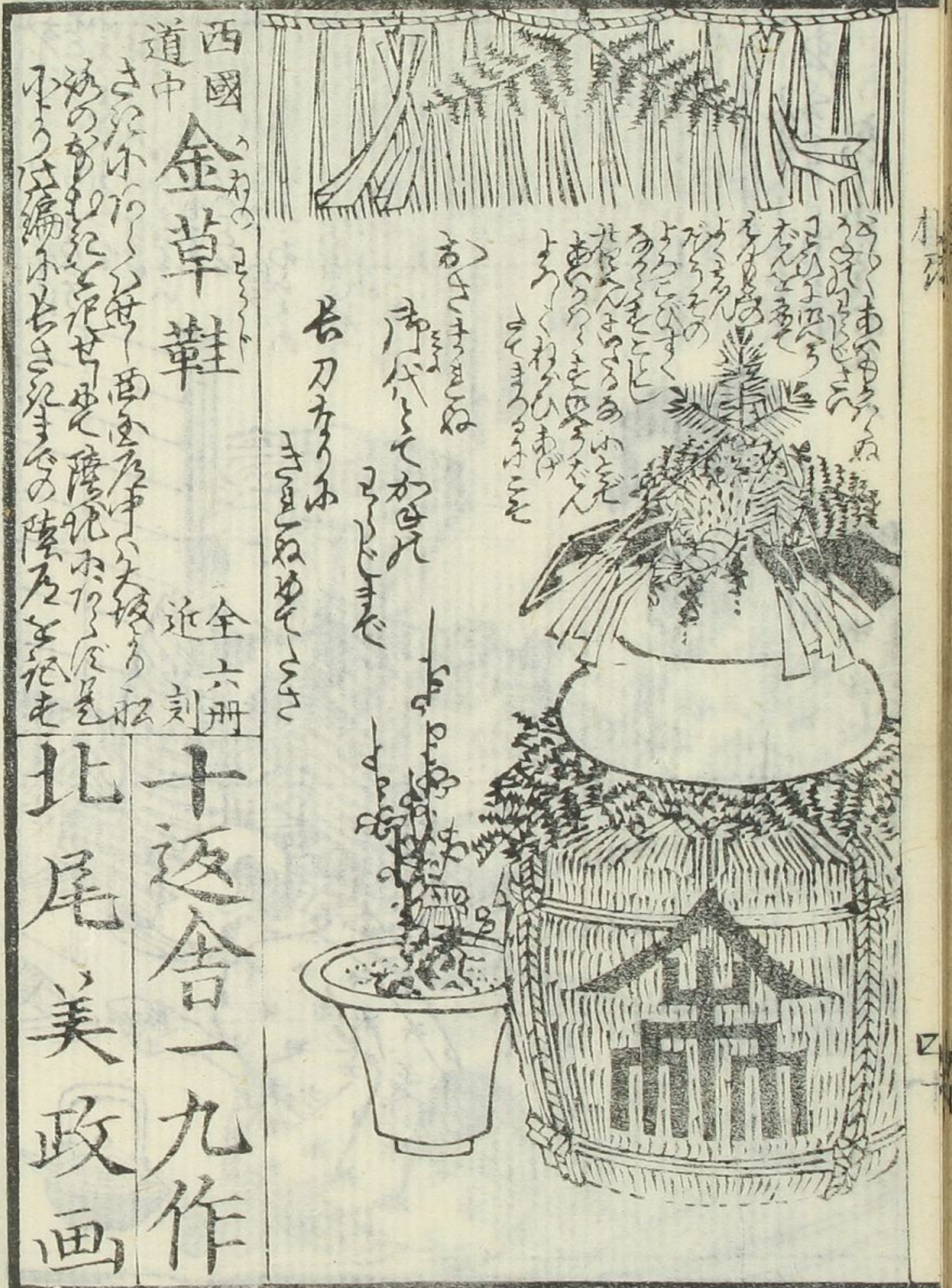


山 離









西國  
道中

金草鞋

さかすかすの草鞋 西國道中 大坂より  
 海のほとりには 花の香る 陸のほとりには  
 水のはらばら 草の香る 陸のほとりには

全六冊  
近刻

十返舎一九作

北尾美政画

あつたまの  
 席代としてかき  
 長刀方りふ  
 草鞋の草

あつたまの  
 草鞋の草  
 草鞋の草

早稲田大学図書館

011688991988